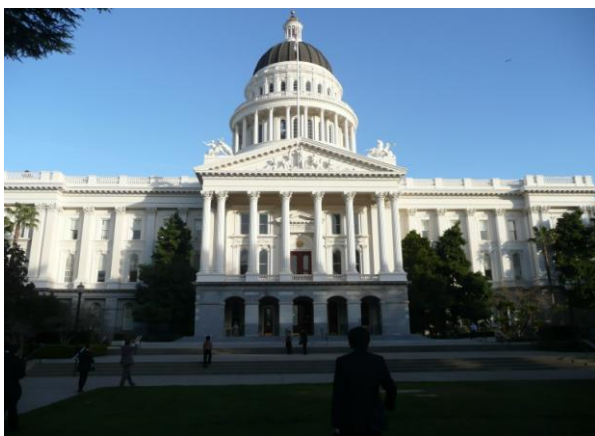


## ● 平成23年度サクラメント市海外行政視察 所感

副団長 栗原 久子

平成23年度松山市議会議員海外都市行政視察は、昭和56年8月に姉妹都市提携を結び、30周年を迎えたカリフォルニア州サクラメント市を中心に訪問することを決定し、事前勉強会を各分野において開催し、協議を重ね、友好親善・政治・経済・文化・都市事情などを調査し、その成果を今後の私自身の活動、また、市政に反映するべく有意義な視察になることを決意し望んだ。



(サクラメント州庁舎)

また、事前情報をインターネット等で調べるうち、カリフォルニア州は国内でも人口が最大であり、サクラメント市はカリフォルニア州の政治の中心で、州都の所在地、州最高裁判所の2番目の所在地、国内最初の大陸横断鉄道ができたところと記してあり、1800年代に建てられた古い美術館や文化遺産も多く、先人達のご尽力で、アメリカの中でも

由緒ある素晴らしいサクラメント市と本市が姉妹提携を結び、様々な交流が続いていることが大変有意義であることを改めて感じ、今回、視察団として訪問できたことに感謝するとともに、サクラメント市を重点に所感の報告をする。

松山空港を後に、一路、羽田空港経由、成田空港発サンフランシスコ国際空港へと、11時間の長旅の機上の時を過ごした。夕方、日本を出発したが、当日の朝に到着。不思議な時差を感じながら現地ガイドのお迎えをいただいた。事前情報より暖かく、サクラメント市視察は、今回で2度目である。

車移動でサクラメント市到着。少し郊外の「サクラメント・リバー」のすぐそばの小さなホテルでの宿泊。その日の夕刻、今回の視察で初めての夕食となり、野菜たっぷりのサラダと巨大ステーキにびっくりの一時であったが、翌日から始まる視察団全員の体力確認の場であった。

サクラメント市は、先にも述べたが、カリフォルニア州の州都であり、様々

な州関係施設が多く点在し、ダウンタウンには州庁舎、州議会議事堂、前州知事シュワルツェネッガー氏がいたところでもある。州議会議事堂前の広場は公園になっており、巨大な樹木や市の花である“椿の木”があり、市民の憩いの場所になっていた。幅広な道路に面したところは、巨大な街路樹に囲まれ、落ち着いた雰囲気がかもし出されていた。

「オールドサクラメント」と呼ばれている地域は、1850年代の面影を残す場所で、ゴールドラッシュ時代の街並みを再現し、その一角には、世界で初めての「飛脚」発祥の地の象徴である「馬に跨る勇敢な人物」がブロンズでかたどられている。



（「馬に跨る勇敢な人物」のブロンズ像）

昭和62年に「松山中央郵便局」と「サクラメントメイン郵便局」との国際姉妹郵便局が、世界で初めて提携されたことは大変有意義である。また、現職警察官が、馬を引いてパトロールをしている様子が伺えた。

「鉄道博物館」では、ゴールドラッシュで鉄道が引かれ、アメリカ縦断鉄道の出発地点であるということで、1948年からの鉄道の歩みがわかる素晴らしい施設である。

また、サクラメント市は、世界的CD・ビデオ・DVDショップチェーンの「タワーレコード」の発祥の地である。

スポーツ・教育環境にも大変恵まれ、現、第55代サクラメント市長ケビン・ジョンソン氏は、元NBAバスケットボール選手である。多くのスポーツ施設整備がされており、コンベンション協会では、スポーツイベントを観光に結び付けていること、施設での各種会議や劇場の誘致を積極的に行っている。大学も数校あり、他の学校施設も行政関係者が多く住んでいる関係もあり、町全体が大変落ち着いた印象を受けた。

今回、サクラメント市で、姉妹都市協会の方々を初め、市庁舎での案内やコンタクトをとっていただいた方、コンベンション協会の概要や施設案内をしていただいた方々、ホテルやレストランの関係者等々、異人種の大勢の方々にも会ったが、何の違和感もなく、大変親切に接していただいた印象である。

また、近代的なダウンタウンには、「L R T（高速路面電車）」が市の中心から郊外へと伸び、郊外では時速80キロで走るということである。

サクラメント市内中心では、至るところにごみを分別収集できるボックスが設置され、また、飲食店での喫煙も制限され、環境問題について市民意識が高いように感じられた。全体の印象は、政治の中心であることから国内外の異人種との関わりや交流が盛んで、文化や歴史が刻まれ、治安も悪くないところで発展し、交通機能や海運でも大変便利な位置であると感じた。



（「リトル東京」の街並み）

サクラメント市を後に、空路、ロサンゼルスに移動。年中温暖な地中海気候のせいか日本の冬と少し違い暖かく、日中は過ごしやすいが、夜は気温が下がり寒さを感じさせた。市内はカリフォルニア州では一番にぎわっており、ハリウッドやビバリーヒルズがあることでも有名である。

「リトル東京」と言われる日系アメリカ人の多い地域のホテルでの宿泊。

日本食も食べられ、日本語が通じることもあり、ホッとする一時であった。

「ホーム・デポ・センター」スポーツ施設の視察。サッカースタジアムや練習場、木製のコースがある室内競輪場、テニスのU Sオープンなども開催される施設などがある。規模の広大さと、国民全体がスポーツを楽しみ、応援し、生活の一部となっていること、日本との大きな違いが見えてきた。

午後「SPCAロサンゼルス」を視察。動物愛護シェルターで、主に犬猫に関する事業を展開しており、すべて寄付や寄贈、補助金で賄われて、ボランティアによって運営がなされている。アメリカは動物と共生する習慣が日本よりずっと早くから始まり今日に至っているとのことで、この日も動物専属番組のテレビ局の取材陣と遭遇し、日常と動物の関わりが深いことを実感した。

そのほか、「UCLA大学」の敷地の広大さと、異人種の学生が学び、大学そのものが観光地の一つとして「UCLAグッズ」をショッピングゾーンで売る戦略には、アメリカらしいと感じる。

また、有機農産生産者を視察。広大な農地を土作りから生産まで他国からの労働者を受け入れての作業。水の確保や販路拡大への取り組み、減農薬対策等、

問題解決に向け、日本と同じ後継者の問題等々苦勞があることがわかった。この農場でも「フルーツマーケット」、日本で言う「産直市」がハイウエーのそばに作られて、視察団員皆でイチゴを買い求めた。

ロサンゼルスから、約1時間20分、サンフランシスコへ国内機で移動。私自身は、サンフランシスコを訪問するのは3回目。空港からサンフランシスコ市内へ、ゴールデン・ゲート・ブリッジ、ツインピークス、フィッシャーマンズワーフ、坂道の多い地域をケーブルカーが行き来をしていること、以前と余り変わらない様子であった。アメリカ全体でもあるが、相変わらずの車社会。4車線のフリーウエー（高速料金無料）の車の多さに驚き、また、3分の2以上が日本車であった。

翌日、早朝よりバス移動。約300キロ、片道約4時間をかけアメリカでも最も人気の高い国立公園「ヨセミテ国立公園」へと出発。道中、ガイドさんの案内を受けながら、アルタモント峠では、高さ25メートルの風力発電が見られ、カリフォルニアでは、約5,000基の風力発電があると聞いた。日本での原発事故が関係し、大変関心の高い場所でもあった。また、約300キロの水路が国立公園付近から作られ、カリフォルニア全体の水を供給しているとのこと。カリフォルニアは、大変雨量の少ない地域で、冬場の景色は茶色に染まり、今年は特に雨量が少なく、例年であれば今の時期には既に緑に少し進んでくるが、日本と同様に異常気象がここにも出ていると感じた。

ヨセミテ国立公園は、セオドア・ルーズベルトが国立公園に指定した自然公園であり、車の乗り入れの制限など、環境に配慮がなされ、動物との共生ができるゴミ箱設置や、人手を入れない自然のままに保護する取り組みがなされていた。巨大な素晴らしい風景に魅了され、日本でも様々な自然を大切に守り、観光と自然環境を維持しながら結びつける意識改革をもっと考えていく必要があると感じた。

今回の視察は姉妹都市交流を中心に、サクラメント市を含めた視察。日本の現状、他国の人々の暮らしぶりを直視して、改めて日本の良さ、素晴らしさを再確認することができた。現在、グローバル化した社会においてIT関係も発展し、瞬時に世界が見えていても、人と人とのつながりをやはり身体で実感し、今後とも友好交流を続けて行くことが大切で、現場に訪れて見て本当の状況も見えてくると実感した視察であった。

視察報告を担当部局にも報告し、今後の活動に生かして行きたいと決意した。